

[特集1]



特急「はやとの風」に バリアフリー対応の新車両が登場



1月21日の出発式には青柳JR九州取締役鹿児島支社長、前田霧島市長らが出席。車いすご利用者のお客さまを代表し、「麦の芽福祉社会」の今原勉さんに花束が贈呈されました。

「日本一心ゆたかなローカル線になりたい」という願いを込めて、九州新幹線の開業と同時にデビューしたJR九州の特急「はやとの風」にこのほど新車両が登場。車いす対応のシートを新設するなどバリアフリー対応の作りで、障害のある方も小旅行を楽しめるようになりました。



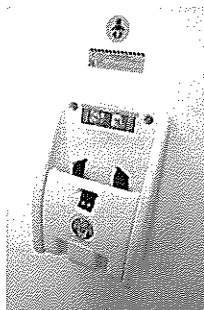
「はやとの風」には客室乗務員が乗務します

「はやとの風」は、黒光りした漆黒のボディに金のエンブレムがモダンでカッコいいと人気を博している観光特急列車。鹿児島中央―吉松間を一日2往復しています。新車両は今年1月21日から導入され、当日は鹿児島中央駅で出発式やイベントなどのセレモニーが行われました。今回登場した新車両にはバリアフリー対応のトイレも設置されており、壁や窓の目よけにはハイオリンなどに使用される木材の「ホワイトカモシカ」を使用するなど、木の温もりを感じさせやすいつくりになっています。また新たにボックスシートも登場し、テーブルをはさんで4人向かい合わせで利用できるため、グループでの

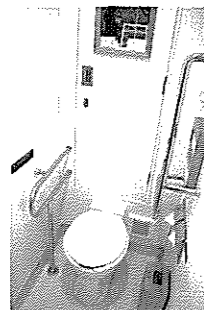


ご家族やグループでの旅行に最適なボックスシート

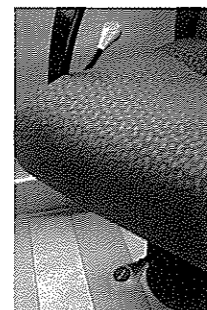
の利用がさらに楽しくなりました。日本の原風景をのんびりゆっくり楽しめるのが、ローカル線ならではの醍醐味。「はやとの風」は鹿児島中央駅を出発後、鹿児島駅、隼人駅、嘉例川駅、霧島温泉駅、大隅横川駅、栗野駅を経由して90分ほどで終点・吉松駅に到着します。天気の良い日には途中、桜島の雄姿がくっきり見えるほか、錦江湾を泳ぐイルカの風景に出合えたり、停車中にうぐいすの鳴き声が聞こえてくることもあります。時にはゆったりとした気持ちで、四季折々の景色や情緒を楽しめる小旅行に出掛けてみてはいかがでしょうか。



新車両のトイレにはベビーキーもついています



車いす対応のお手洗い

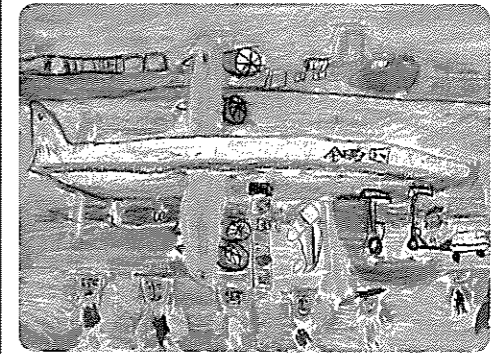


車いす対応座席



「はやとの風」の指定券の予約は1か月前の午前10時から、JR九州予約センター 099-255-1616で受け付けています。前日と当日の問い合わせは鹿児島中央駅のみどりの窓口099-254-3404へ。

◀車両中央に設けられた展望スペース。パンやお菓子、地ビールなどの車内販売もあり、客室乗務員が厳選した「はやとの風」ならではのメニューも魅力です



[特集1] 特急「はやとの風」に バリアフリー対応の新車両が登場

PAGE 1

[特集2] 発達障害について知ろう!~ 「発達障害者支援センター」オープン

PAGE 2

あっぱ
ヒューマンドキュメント
福岡 優也さん PAGE 4

あっぱ通心
「デフNet. かごしま」 PAGE 6

バリアフリー最前線
新種子島空港(中種子町)
ラウンドワンスタジアム鹿児島宇宿店
(鹿児島市) PAGE 7

ハードルを越えて
川路 智洋さん PAGE 8

鹿児島県からのお知らせ
障害者自立支援法が施行 PAGE 9

表紙/空港で働く人

第23回肢体不自由児・者の美術展「ジェットロニクス国際賞受賞
出内 隆太さん

鹿児島県立鹿児島養護学校高等部3年

鹿児島養護学校では毎年夏休みの第1週目、希望者を対象に絵画制作会を実施。美術担当の先生の指導のもと10名程度の生徒が参加して、1日6時間も作品制作に取り組んでいます。この作品もその時に描かれた作品です。

発達障害について知ろう!

平成17年4月1日から「発達障害者支援法」が施行され、発達障害者への支援が図られることになりました。発達障害はできるだけ早期に発見し、早期の発達支援を行うことが重要です。わたしたちも発達障害について正しく理解し、社会全体でサポートしていく必要があります。

発達障害とは?

発達障害とは、自閉症、アスペルガー症候群などを含む広汎性発達障害、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)など、脳機能になんらかの障害があり、行動や認知発達の遅れやかたよりといった症状が通常低年齢に現れるものをいいます。

親のしつけや家庭環境によって引き起こされるものではありません。
早期の発見と早期の発達支援が必要です。

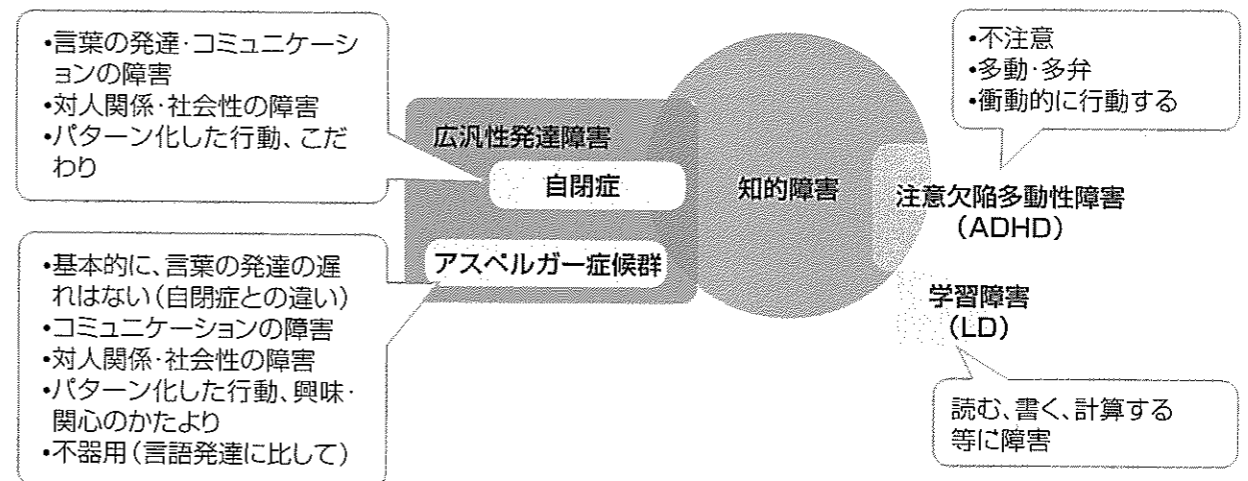
発達障害の特徴は?

発達障害児(者)は、見た目には普通の人とは変わらないため、本人や周りの人たちも障害があることに気づきにくいという特徴があります。そのため、周囲とのコミュニケーション等がうまくいかなかったり、学校・職場で困難を抱えたりすることがあります。

家庭での育て方・接し方は?

発達障害のお子さんも、着実に成長していきます。家族や学校など周囲の人たちの適切なかわり(正しい理解やサポート等)により、発達を促します。好ましくない行動を起こすのは何らかの理由があるためであり、それを理解し、改善に結びつく適切な環境を整えることが大切です。いやがることを無理にやらせたり、厳しいしつけや体罰を行ったりすることは逆効果です。本人が一番困っているということを、周囲が理解し、支援する必要があります。

発達障害の概念図



※広汎性発達障害とLD、ADHDは重複する場合があります。

厚生労働省資料

発達障害についての相談は?

発達障害についてのご相談は、鹿児島県発達障害者支援センター、市町村の相談窓口(保健師など)や保健所、学校、かかりつけの医療機関等に相談してください。



鹿児島県中央児童相談所
鹿児島県知的障害者更生相談所
鹿児島県発達障害者支援センター

「発達障害者支援センター」オープン

今年2月にオープンした発達障害者支援センターは、発達障害児(者)やその家族からの相談に応じ、専門的な指導及び助言を行い、就学前の発達支援から就労支援までライフステージに応じた支援を行う中核施設です。発達障害は、早期の発見と早期の発達支援が重要です。右ページのよう傾向が持続的に顕著な場合、ご相談ください。

支援内容

- 相談支援……日常生活に関する相談に対する適切な指導や助言、情報提供。
- 確定診断……初期面接から各種検査を行い、医師による総合的な診断。
- 発達支援……発達障害の早期発見に努め、医療、保健、教育など関係機関と協力した支援。
- 就労支援……仕事に関する相談に対する、障害者就業・生活支援センター、ハローワークなどと連携した支援。

● 普及啓発・研修……発達障害に対する県民の理解を深めるための様々な啓発活動や、発達障害児(者)に携わる方々への研修。

相談窓口

- 電話相談……
- 099-264-3720(直通)
- 099-264-3003(代表)
- 月曜～金曜/9時～17時
- 土曜・日曜・祝祭日は休み
- 来所相談……予約制(電話での予約が必要)
- 巡回相談……離島や遠隔地に職員が出向きます。
- 予約制(電話での予約が必要です)
- ※当センターでの相談などは無料です。
- ※プライバシーに関する情報は厳守します。

スタッフコメント

今年2月開設後1カ月で100件を超える相談がありました。4月からはさらに診断部門を充実し、支援を強化します。また今後は県内27カ

所の児童デイサービスをはじめ、各関係機関とのネットワークの強化を図り、一貫した発達障害者支援システムの構築を検討してまいります。

療育指導部支援課長
瀬戸山勉さん

鹿児島県発達障害者支援センター
(県児童総合相談センター内)

住所 鹿児島市桜ヶ丘6丁目12番
開所時間 9:00～17:00
定休日 土曜・日曜・祝祭日
TEL 099-264-3720(直通)
TEL 099-264-3003(代表)
FAX 099-264-3044

ありが ヒューマンドキュメント

会社経営と 仲間との車椅子バスケットボールに 汗を流す充実の日々

ふくおか まさや [福岡 優也さん]



順調な日々が急に暗転

鹿児島市に住む福岡優也さんは、温泉で有名な北海道の登別出身。地元の高校を卒業した後、東京。短期大学に進学し、卒業と同時に東京の建設会社に就職、建設現場を走り回る多忙だが充実した生活を送っていた。そんな順調な日々が突然、思いもかけない災難が降りかかる。ある現場で両足を負傷する事故に遭ったのだ。

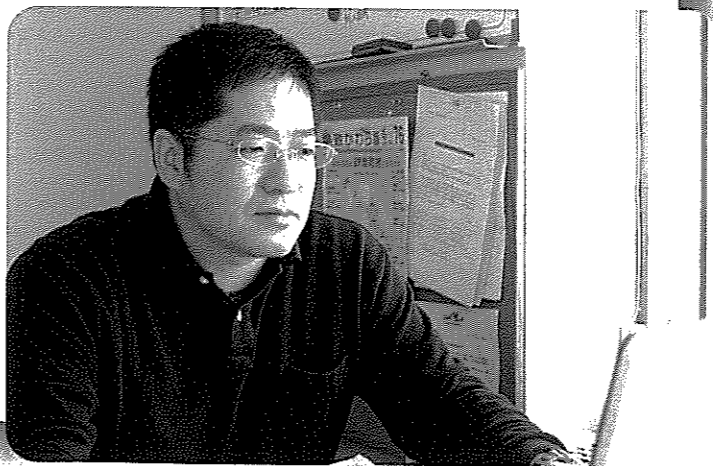
両足切断の危機

「もう少し早く病院に搬送されていたら、という思いは今もありませんね」と語る福岡さん。事故に遭ったのが夜中の2時。崩れた土砂に下半身が埋まり、救出までに12時間をも要した。当時のTVニュースで取り上げられ奇跡の生還とまで言われたが、医者からは「両足を切断しないと、命にかかわる可能性もあります」との宣告を受けた。筋肉の切除

など必死の治療の甲斐もあって、なんとか最悪の結果は免れたが、1年間の入院を余儀なくされた。

福祉の道を目指して再起

「入院当初はなにも考えなかったけれど、落ち着いてくると今後の生き方について真剣に考えるようになりました」という福岡さん。考えた末に福祉の道を歩むことを決意した。目標ができる、きついリハビリテ



事務所で作業を行う福岡さん

ーションも持ち前の根性でこなしやがて退院、福祉関係の専門学校に半年通った。専門学校を出て、就職先を探しているとき、インターネットで興味深い情報を見つけた。「バリアフリー住宅などを手掛けている建設会社が

鹿児島県内にあり、車椅子の販

売をしている部門が人材を募集していたんです。さっそく応募して採用され、鹿児島での生活が始まった。

鹿児島に就職し、独立!

「生まれが北海道でしょう。最

初は夏の暑さには参りましたね」と言いながらも、鹿児島県内各地を精力的に駆け回り、車椅子の営業に明け暮れる毎日。そして昨年5月、建設会社の車椅子部門を切り離す形で独立、「イースウィールチェア」という新会社を設立した。福岡さんの手掛ける車椅子は、オーダーメイドも可能だが、様々なサイズの部品を組み合わせ、使用する人の体格や使い勝手に合わせて作るモジュールタイプが主流とか。今では奥さまとの二人三脚で、県内はもとより遠くは宮崎まで販路を広げている。

車輪の具合を見る時の目は真剣そのもの

車椅子バスケットに汗を流す

そんな仕事熱心な福岡さんの趣味は、4年前から始めた車椅子バスケットボール。チーム「薩摩ほっけもん」に所属し、忙しい仕事の合間を縫って、週一回ハートピアかごしまのコートで行われる練習に可能な限り顔を出し、仲間たちといひ汗を流している。「目下の悩みですか? チーム数が少なく思うように練習試合ができないことです。ちなみにチームでのニックネームは「クーさん」。温かな人柄もあって、人脈が広がり、紹介でくる仕事が多いという。これからも仕事にスポーツにと、充実した人生を歩んでゆくにちがいない。



仲間たちとバスケットボールで汗を流すのが楽しみ

